



AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

フレンド会報32号

ビル名が
変わりました

〒102-0074
東京都千代田区九段南2-3-22
アーバンセカンドビル3F
TEL:03-6265-6490
FAX:03-6265-6491

2021年7月15日 発行



AEFAの3層構造理念



今だからこそできることを

新しい「交流」の窓

柏原東高校(カシトン)継承式



今だからこそできることを

ベトナムで実現した開校式、そして新しい教育プログラム

ベトナムから嬉しいニュースが届きました。トゥエンクアン省ソンズオン郡で建設が進められていたタンタイン1小学校の校舎とレインボーライブラリー(図書館)が完成したのです。4月14日には小学校の開校式とレインボーライブラリーの開所式が行われました。

式典は生徒による校歌の合唱とダンスで始まりました。この校歌のメロディーは、タンタイン1小のドナーである株式会社サイサンからのプレゼント。同社の社歌がベースになっています。ソンズオン郡のChildren Culture Houseの音楽プロデューサーが歌詞を創作し、タンタイン1小の先生がダンスの振り付けを考えました。みんなで作った校歌の合唱に、サイサン社のベトナム駐在員*のお二人が加わって、最後はベトナム語の校歌と日本語の社歌の合唱となりました。（*ベトナムにあるサイサン社のグループ会社「ガスワングループ」に日本のサイサン社から派遣されている）

開校式の交流会では駐在員のお二人を含めたゲストが生徒たちと一緒にベトナム英雄の物語を演じ、踊りを披露。他にもバンブーダンス、綱引き、寄せ書きづくりなど、生徒とゲストが一緒に楽しめる企画が盛りだくさんの、楽しいイベントとなりました。

タンタイン1小学校のプロジェクトは、サイサン社75周年記念事業として支援していただいたものです。サイサン社駐在員の方は開校式に参加するだけでなく、着工式での鍵入れから開校式の準備まで同校の建設をずっと見守り、寄り添ってくださいました。AEFAが現地に渡航できない状況が続く中でも同校の開校式・開所式の開催が実現したことは、今後の活動に向けた希望の力になっています。

今年6月時点で、ベトナム現地で開校式を開催できたのはタンタイン1小のみですが、ベトナムにおけるAEFAの学校建設事業そのものは順調に進んでいます。また、ベトナムではソフト支援も充実してきています。AEFAでは昨年からコロナ禍をひとつの機会ととらえてベトナム支援の方向性を見直してきました。その結果がソフト支援の充実につながっています。レインボーライブラリーを通じた読書習慣啓蒙活動は10校に広がり、更に4校で建設中です。このほか、科学技術教育プログラム「STEM (Science, Technology, Engineering, Math)」、Child Education、オーガニックガーデンなどの新しいプログラムが形となりつつあります。



写真：左上) タンタイン1小開校式 図書館のリボンカット 左中) タンタイン1小開校式 交流会 左下) タンタイン1小開校式 新校舎の前で記念撮影 右) STEM モーターについて学ぶ

STEMプログラムは今年に入って大きく進展し、AEFA支援校であるバグサン省ニンソン小学校のカオロイ分校で活動開始となりました。これはAEFA初の試みでもあります。

STEMの目的は科学技術に触れる機会の少ない少数民族の子どもたちに科学や技術の面白さを伝えることです。それとともに、受動的になりがちな少数民族の子どもたちが自ら科学や技術を学び、世界を広げ、科学技術系の進路への興味や学習意欲を持つように助けることも目指しています。このため、科学技術の知識と、子どもたちの自主性を育てる教育メソッドを身につけた教師育成が不可欠です。そこで、カオロイ分校の教師へのアンケートやインタビュー調査の結果に基づいて教師向けトレーニングコースを開発・実施し、のべ87名の教師が受講しました。4月には「STEMハウス」と呼ばれる活動拠点が完成。いよいよ子どもたちへの模擬授業が始まりました。

STEMハウスは、実験器具や科学技術に関する本を備えたプログラム活動室。ハウスの外壁にも内側にも絵が描かれており、見るだけで楽しい気持ちになります。学校の理科室とは異なる、ワクワクする体験ができる場所として、子どもたちの創造力を刺

激するような絵が描かれているのです。模擬授業も、子どもたちが身近なものから楽しく学べる工夫が凝らされています。たとえば5年生のプログラムは、子どもたちがフルーツジュースを作る実験を行い、水が砂糖や塩、フルーツなど、さまざまな物質を溶かす性質を持つことを学ぶというもの。さらに、洪水のビデオを見て水の持つ大きな力について学ぶなど、子どもたちの視点を広げる工夫も施されています。また、子どもたちが学んだことを実験ノートにまとめて発表するというプロセスが組み込まれており、能動的な姿勢を育てることにも配慮しています。

STEMの学習リーダーとして選抜された生徒たち25名による「STEMクラブ」も活動を開始しました。これは、教師やSTEM専門家の支援は最小限にして子どもたちの自発的な活動を促すもので、4月度の活動テーマは「自然」、題材は「豆の発芽と栽培」。STEMクラブのメンバーは豆の発芽のプロセスや栽培方法について本やビデオを使って自分で学習し、そこから得た知識をもとに実際に豆を発芽させることに成功しました。メンバーたちは「大きく育てて豆を収穫するのが楽しみ！」と栽培を続けています。



写真：左上・右上) STEM 水にいろいろなものを溶かす実験 左下) STEM 豆の発芽と栽培について学ぶ 右下) STEM 模式図を作成して人体について学ぶ

カオロイ分校のSTEMプログラムは模擬授業の段階、つまり、正規の授業が完成する前の段階ではありますが、教師たちはSTEM専門家から学んだ教授法を授業のカリキュラムに取り入れつつあり、生徒たちも科学技術を学ぶこと、自ら学び自ら考えることの楽しさを知りつつあります。AEFAとしても手応えを感じており、STEMプログラムの広がりが期待されます。

多くの「できないこと」に直面するコロナ禍において、これらの事業成果をあげることができたのは大きな喜びでした。同時に、現地の力をあらためて感じました。タンタイン1小学校の開校式・開所式の企画はほぼ全て現地NGOと学校とで準備したものです。AEFAが通常依頼しているイベント内容に留まらず、自分たちのできるベストの企画、ベストの行動で、参加者全員が笑顔になるイベントとなりました。現地の人々の感謝の気持ちを表現する心意気と行動力に、AEFAとしても学ぶことが大きかったと感じています。

ベトナム現地のNGOは、コロナ禍の中で活動を継続する方法を模索しながら前進しており、AEFAのプロジェクトが止まるこはありません。その一方で、現地に行けない状況では実施が困難なこともあります。AEFAもまたこれらの問題にどう対処するかを模

索しながら前進しています。たとえば「フィールドトリップ(現地観察)」の見直しです。

フィールドトリップは、村の人々や普段Eメールでしかやりとりのない現地NGOメンバーに直接会える貴重な機会です。移動の車中や食事の前後など、さまざまなチャンスをとらえて現地の人々の話を聞き、現地の要求や困りごとを理解します。これを充分に行うことで、ボタンの掛け違いをふせぎ、関係者すべてのニーズに応えるプロジェクトの実現が可能になります。AEFAでは今、渡航困難な状況下でこのフィールドトリップの目的を果たすための新しい方法を探っています。

限られた環境や条件の中で、プロジェクトをどう実現していくか。この難問に立ち向かうための力をくれるのはやはり、子どもたちの笑顔です。学びの喜びを知った瞳の輝きです。

新しい学校、図書館、そして新しい教育プログラムが、この時代を生き抜くたくましさを子どもたちに与えてくれることを願いつつ、AEFAも現地NGO、ドナーや会員の皆様とともに、今だからこそできること／考えられることに力強く邁進します。



写真：左上) STEM 豆の発芽について学ぶ 左下) STEM クラブ活動中 右上) STEM ハウスの外観 右下) STEM ハウス内装ペインティング

報告：田中富美子

AEFAが行う活動の中で特に重要なものが、フィールドトリップ（現地視察）です。AEFAが支援地域、支援対象校、支援内容を決めるにあたり、現地の現状を知り、顕在的・潜在的なニーズ（支援内容）を理解することが現地視察の目的です。

ベトナムでの現地視察の例をあげると、最初のステップとして現地パートナーNGOから支援対象地域と候補校情報をEメールで貰います。その中からAEFAが訪問して支援先として検討したい学校を選び、視察日程をパートナーNGOに組んでもらいます。日程としては、10～15校校の学校を3～4日かけて訪問します。現地視察には、パートナーNGOが同行、時には地域の教育訓練局（日本の文科省にあたる教育訓練省の地域支部）の役人もフィールドトリップに同行、同行しない場合は視察先に待機しています。視察先では、校長先生や現地の教師、村のおえら方や人民委員会の担当者が迎えてくれることがほとんどです。

現地視察は、現地の要求を聞き現地・現物により肌感覚で理解、また現地が言つてこない潜在的なニーズについての質疑応答をすることが出来る唯一の機会です。そして現地視察で理解したニーズがその後のAEFAの活動の原動力となっています。

このようにAEFAの原動力ともいえる現地視察ですが、次のような課題やリスクもあります。

- ① コロナ禍で1年以上現地視察が行われていない。再開の目途もたっていない。
- ② 事前に視察に対する政府の許可を得る必要がある。そのため、視察先の現地が準備された状態での訪問となる。現地が知らせたい現状だけを知らされるリスクがある。
- ③ 現地NGOの経験則（AEFAの支援校のこれまでの傾向）が、パートナーNGOの候補校絞り込みの時点で入り込む余地がある→AEFAに伝わってきていらないニーズがあるかもしれないというリスクがある。

AEFAには、17年間の現地を見続けてきた実績があり、コロナ禍で約1年現地視察が出来なくてもこれまでの貯金で現地のニーズをパートナーNGO経由で理解することができました。また、現地視察時にリスクの余地も踏まえて、現地で会うひとびとや海外パートナーNGOへのヒアリングを密に行い、眞のニーズを知ることに努めてきました。

一方で、現地視察に行けない中、現地視察についても、新しい窓を開ける必要性を強く感じています。海外パートナーNGOとともに行う新たなチャレンジ目標として取り組みたいと考えています。



学校建設プロジェクト

2021年6月現在



① コンミン分校



② タンタイン1小学校



③ クアセット中学校



④ パヌアン小学校



⑤ カダップ小学校



⑥ チエンサイ小学校



⑦ プワクピティヤ南小学校



⑧ カルアガラ・スリ・シッダールレタ小学校



⑨ ワガワッタ・タミル小学校



⑩ カイダー小学校



⑪ ニュウ中学校



⑫ ラック 28 小学校

国名	学校名 支援者（敬称略）	ひとこと
ベトナム 完成	コンミニ分校	創業100周年事業で、ベトナムの子どもたちに学校をプレゼント。
	株式会社近江兄弟社	開校式で近江兄弟社の皆さんに会える日を、楽しみに待っています。 写真①
	タンタイン1小学校	創業75周年事業で、小学校と「レインボーライブラリー」そして「校歌」をプレゼント。4月、開校式と図書館の開所式を開催することが出来ました。子どもたちと一緒に現地法人・駐在員の方も交流会で絆引きや寸劇や活動をともに楽しみ、開校の喜びを分かち合いました。 写真②
	株式会社サイサン	
	クオン分校	コロナによる遅れはありつつも、無事に完成しています。教室不足で複式授業を行っていたクオン分校、壁もなくブルーシートを張っていたバンバン分校に新校舎が完成し、子どもたちの学習環境が大きく改善されました。
	バンバン分校	
	エルセラーン1%クラブ	
	レインボーライブラリー 6校（ミンフー小・フォンリュース・タムダ小・ツークアン小・ミンクアン小・シンタイ小）	本校に、図書館を設置。読書習慣啓蒙活動を行います。本校だけでなく分校とも連携し、地域の子供たち全体に本との出会いや新たな世界を開くきっかけが生まれます。
ラオス 建設中	エルセラーン1%クラブ	
	クアセット中学校 新設	地域の5つの村の子供たちが通う中学校。地域の中心校として、「環境プロジェクト」も取り入れられ、環境整備とともに生徒の生きる力を伸ばします。
	WANG基金 藤原和博 (水設備：株式会社ブロードウェイ)	2021年度プロジェクトとして、「図書館」の建設が始まります。 写真③
	パヌアン小学校	雨で道路が不通となり工事までに時間がかかりましたが、工事は順調に進み、2021年春新校舎竣工。その後に休校となりましたが、新年度から子どもたちの元気な声が教室に響くことでしょう。 写真④
	西村知康、寛子	
	カダップ小学校	修理を重ねた古い校舎は教室不足で過密状態、複式授業を行ってきました。2020年8月着工、12月末に新校舎が完成しました。2021年より、1-5年生まで141名の児童が新校舎で学んでいます。 写真⑤
	恒住泰則・恒住孝子	
	チエンサイ小学校 増設	基礎工事中に不発弾が発見され、一時工事を中断。UXO Lao（不発弾処理機関）の慎重な作業により、地下1mまで再調査を行い、安全が確認されたうえで工事を再開。誰一人けがもなく、新校舎が完成しています。 写真⑥
ベトナム 建設中	エルセラーン1%クラブ	
	バウ分校	タンタイン1小学校の分校の1つですが、児童数が多く教室不足で、午前と午後の半日制での授業を余儀なくされていました。新たに5教室を建設しています。
	株式会社カナオカ	
	カムリII小学校 及びレインボーライブラリー	2つの分校を統合し、新しい学校用地に移転、新たに小学校を建設します。隣接した中高校と合わせて、地域の総合的な教育の中心校となります。
	株式会社ニッコクトラスト	
	レインボーライブラリー ハオフー小学校 タイトウイ小学校	
	エルセラーン1%クラブ	本校に、図書館を設置。読書習慣啓蒙活動を行います。本校だけでなく分校とも連携し、地域の子供たち全体に本との出会いや新たな世界を開くきっかけが生まれます。
	レインボーライブラリー ピンフー小学校	
ラオス 計画中	株式会社ブロードウェイ 株式会社ビーワンコーポレーション	
	クモ分校	
	熱中小学校 江丹別分校 「小学校をつくろうボランティア部」	1980年築の倉庫を改造した2教室は、老朽化が激しく危険なばかりか湿気が多く健康によくありません。教室数も足りないため、3~5年生は本校に通学しています。
	タイアン分校	
	横浜幸銀信用組合	竹と土で建てられた仮設校舎は老朽化が激しく、レンガ造の校舎も隙間が出来、雨風をしのげません。教室数が不足、村のカルチャーハウスを借りて授業をしています。
	ガン中学校	同社による支援校「ナボーン中高校」学区のガン分校では、近隣4か村の生徒が学びます。中学校修了後は、ナボーン高校で学べるようになります。
	株式会社フォーサイト	
	キャンドルライツライブラリー クアセット校	小中一貫校に図書館を設置、読書啓蒙活動を行います。「教育は生命の灯」・・との思いから、キャンドルライツライブラリーと名づけられました。
スリランカ 計画中	WANG基金 藤原和博	
	ワクスピティヤ南小学校	
	カルアガラ・スリ・シッダールタ小学校	【改修プロジェクト対象】改築ではなく、旧校舎の基礎構造を残したまま徹底修繕・改修するプロジェクトとして2020年12月に着工しました。度々のロックダウンにより工事が遅れていますが、いずれも完成間近です。コロンボから近いホマガマ地区にあり、5校のうち4校はシンハラ人の学校、ワガワッタ・タミル校はプランテーション農園内にあるタミル系民族の学校です。 写真⑦⑧⑨
	バンヤーグラ・マハ小学校	
	ワガワッタ・タミル小学校	
	イルコーウィタ小学校	
	エルセラーン1%クラブ	
	ゴイガン分校	冬場は冷え込むイエンバイ省の学校。老朽化した危険な校舎で90名の児童が学んでいます。5年生は教室不足のため、5km離れた本校まで通っています。トイレは古く不衛生で、数も不足しています。
ラオス 計画中	クーマン分校	7クラス、154名が学んでいますが、教室は3教室しかないと、近隣の複数の村のカルチャーハウスを借りて授業を行っています。最も遠い場所は学校から7キロ離れており4教室の新築が望まれます。
	カイダー小学校	カイダーとはベトナム語で「パンヤンツリー（ボダイジュ）」。学校は築33年、老朽化し狭い状態。教室不足のため3~5年生は3km離れた本校に通っています。 写真⑩
	ニユウ中学校	もともと小学校だった建物を、中学校として活用しています。2棟ある校舎のうち1棟は壁も床も無く、雨漏りのする古い仮設校舎です。強風や大雨の後は、村人たちが修理をしながら使っています。 写真⑪
	ファイルーシ幼稚園	小学校と同じ敷地内にある幼稚園は仮設で狭く、満員状態です。保護者の「子どもを通わせたい」という要望は高く、新しい園舎を整備することでより多くの幼児が通えるようになります。
	ブーバチアン中高校 Phase2	ブーバチアン中高校は、「バチアン山」の麓にあり、その名を冠したバチアン郡の基幹校です。老朽化した校舎を建て直し、子供たちが安全に学べる環境をつくります。
	ラック28小学校	AEFA初となるラオス東北部シエンクアン県でのプロジェクトです。約130名のモン族の子どもたちが学びます。山地にある老朽化した校舎ですが、村人たちが何度も補修を重ねて大事に使ってきました。 写真⑫

新しい「交流」の窓

「現場主義」を掲げるAEFAとしては、昨年来のコロナ禍は大きな影響を受けました。しかし、長年培った現地NGOとの信頼関係のおかげでプロジェクトは進み、学校建設の工期が変動するなどの影響を受けながらも無事に竣工。開校式も現地にて実施されています。現地で喜びを分かち合うことはできませんが、新校舎が完成して子どもたちの学習環境が整い、学べることを祝う…という原点に立ち返ることができました。

現地から届く写真は、開校式の準備をする子どもたちや見守る大人たちの笑顔があふれていて、私たちの心を明るくしてくれました。

AEFAの活動の重要な柱のひとつである交流事業、なかでも、活発に実施してきた小学校への出前授業も令和2年度実施はわずかに10回。近年は年間50回以上、年によっては115回も実施してきたので、大幅減です。学校を訪問できないなら、授業の内容だけでも教室へ届けられないだろうか。そんな思いで開発したのが、「代行出前授業」と「Zoomによる出前授業」です。

代行出前授業では、AEFA講師が使用しているスライドにコメントを付けて、担任の先生がそれをなぞって話していくけば授業が出来るようにしました。現地の人たちが使っている生活用品なども同時に貸し出すので、実物を見てもらえます。

また、教室とAEFA事務所をZoomで繋いで、出前授業を実施しました。相手は長野県大岡小学校です。画面越しでも活発に質問が出て嬉しくなりました。同校は毎年「大根プロジェクト」として学校菜園で育てた大根を販売、売り上げをラオスの学校の



写真：右上）代行出前授業用スライド 左下）Zoom出前授業

教材等へ役立てていて、今年もZoomで”売上の贈呈式”を行いました。

なお、出前授業は、令和3年度も東京都教育委員会からの後援を頂きました。今後も工夫を重ね、より充実した授業ができるように教材開発を進めていきます。

こうして「交流」についていろいろ考えるなかで、普段東南アジアを見つめて活動している私たち自身が、実は日本国内にいる東南アジアの方々のことあまり知らないのではないかと思うようになりました。たとえば、AEFAプロジェクトで176校を建設(2020年末)したベトナムからは、約45万人が日本に在留しています。これまで「ドンズー日本語学校」を修了した留学生が、AEFAの活動に参加しています。一方、技能実習生とはあまりかかわりがありませんでした。留学生や実習生以外にも、働きながら独学で、日本語や文化を勉強している方々が多くいるはずです。

「ベトナムと同じように、日本がだいすき」「言葉がわかると、友達ができる。友達と気持ちを伝えあうことができると、うれしい」

——そんな声を耳にします。むしろ、身近に暮らす留学生や技能実習生を通して、その国のことを探り理解したりする「新しい窓」を開くことができるのではないか。東南アジアにルーツを持つ方々から、生まれ育った故郷の様子や現在の自身の生活などを教えてもらい、交流することは、世界や人とのつながりをより身近に感じ、理解を深めるきっかけになるのではないか。そう考えて、オンラインでの日本語授業や交流会など、個人ベースで少しづつ取り組みをはじめています。

「別の窓、新しい窓」の向こうの東南アジア。窓を開けたときにどんな風景が見えてくるのかが楽しみです。



写真：左上）交流会 左下）開校式の準備 右上）ベトナムについて学ぶ
右下）日本語教室 TVA山形（在山形ベトナム人協会）

マレーシア現地センター 石崎 浩之 様 から

マレーシアからこんにちは。ミャンマーの少数民族・チン族が運営する小中学校CSOの支援をしている石崎です。

彼らは、複雑な事情で母国を出て、皆で協力しながら日々の生活を維持し、かつ子供たちに教育環境を提供しようと、一生懸命です。彼らは、将来が見通せない状況下、どんな国でも生きていくために英語が必須だと考え、母語に加え英語で全ての学習を行っています。また、生徒たちの栄養確保のため、朝・昼の食事も提供しています。新型コロナによるロックダウン時には、限られた予算をやりくりし、タブレットを貸与しオンライン授業を提供するなど、なんとかして学習機会を維持しています。

そして私はAEFAの外部センターとして、2020年7月からCSOの支援に携わっています。具体的には、運営補助資金の受け渡しと特別授業です。4月には、母国ミャンマーの平和を祈り、皆で折り鶴を作るとともに、プリンター印刷した図面か



AEFA会員の石崎さんとCSOの生徒たち

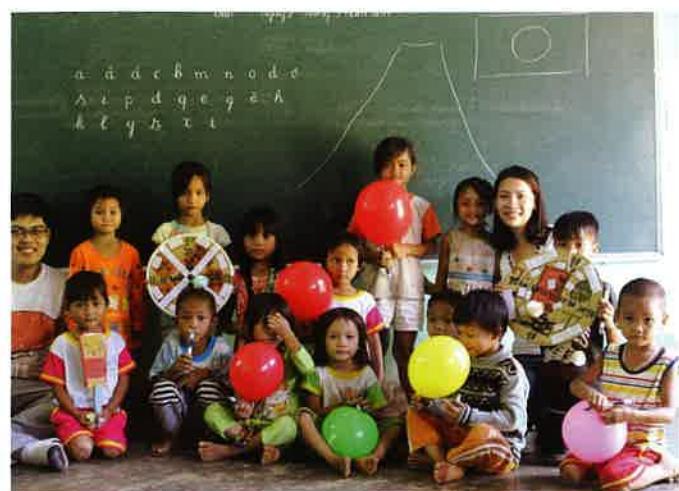
ら電車を作るワークショップを行いました。こんな先が見えない時代だからこそ、日本人として子供たちの発想力を養う支援を、これからも継続していきたいと考えています。

現地からの メッセージ

ベトナム パートナー ドンズー日本語学校 から

ホーチミンに本校があるベトナム最大規模の日本語学校です。南部チャヴァン省の困窮家庭の児童生徒への「青葉奨学生金」、中部クアンナム省少数民族寄宿小学校に防寒着を届けて児童らと交流したり、物を大切に整理整頓の習慣を身につける「暖かい冬を届けるプロジェクト」のパートナーです。

同校OGで、AEFAの元インターン生 レ・ゴック・バオ・ヴィーさんは、「暖かい冬プロジェクト」の発案企画者です。



クアンナム省の小学校にて 後列右 ヴィーさん

「インターン時代、理事長と現地を訪問したのですが、当時理事長は75歳になったにもかかわらず、私が彼を追いかけるのに精一杯のスピードで山道を歩きました。彼には、一刻も早くベトナムの子どもたちと学校の様子を見たく、そのために異常な体力が与えられたのではないかと思います。それだけでなく、ベトナムの現状に対する知識もベトナム人の私より広く持っていて、私よりベトナムのことを色々考えてくださっています。なぜ彼はそこまでベトナム人の私たちのために懸命に生きているだろうと疑問を持ちながら、その姿に感銘を受け、留学前の初心を思い出されました。実はドンズーにいた頃には常に日本で学んだことを母国に持ち帰り、国に貢献することが国民の義務などと教えていただきましたが、実際このとき、AEFAの皆の姿を見て、何も考えていない自分が恥ずかしく、初めてその教訓を実感できました。今改めて考える際、思い浮かべるのは地域の人々のことです。どの地域どの家庭から生まれた子であるかにもかかわらず、必要な時必要な機会を与えられることが理想です。自分の将来の夢を通して、その世界を実現していけばと思います。」

ベトナムの後輩たちへ 柏原東高校（カシトン）継承式

会報28号にて既報の同プロジェクト。コロナ禍の制約を受けながらも、2020年5月新校舎が竣工。日本のカシトンの歴史と思いを受け継ぎ「キムソンカシトン小学校」と名づけられ、ベトナムで新たな歴史を歩み始めています。

2021年3月7日(日)大阪府柏原東高校閉校式典に続いて行われた継承式典に、ベトナムの「キムソンカシトン」の校長先生と子どもたちもオンラインで参加。柏原東高校の校歌と同じメロディのキムソンカシトン小学校の「校歌」の歌声が、会場に響きました。

この様子は、3月8日(月)産経新聞夕刊 3月9日(火)読売テレビ 3月22日(月)毎日新聞朝刊(大阪版)で紹介されたほか、VTB4(ベトナム国営放送)の日本語番組「ジャパンリンク」でも放映されました。

キムソンカシトンの子どもたちと
パク校長先生（写真上右端）



モンのすてき

AEFA発 少数民族のくらし紹介



タイ・チェンマイ県 ろうけつ染の下絵を描く、モン族の伝統を伝える匠

“Hmong”とはモンの言葉で、“人”“人々”を表します。

モン族を知る人が真っ先に思い浮かべるのは、“伝統的な手仕事”かもしれません。日常の光景や動物や自然を表した細緻な手刺繡、美しいアップリケ、藍のろうけつ染、それらを組み合わせた布やカラフルなスカート。特に、ろうけつ染は熟練した技術が必要とされ、年々伝承者が少なくなっていると言われています。

インドシナ戦争後、難民キャンプにいたモン族の女性たちが現金収入を得る貴重な手段ともなり、故郷の風景と代々継がれてきた伝統が手仕事に表されています。

一方男性は、鍛冶、木工、粘土などの細工、狩猟や建築を得意とします。

モンの人々は、祖靈・精霊を信仰しており、生活には様々なタブーがあります。

例えば、家の中心にある柱にみだりに近づいたり、触れたりするのは大きな禁忌です。また、訪問者が家長の許しを得ずに家に入ることは禁じられ、万一破った場合には、伝統的慣習として全員で話し合って解決策をさがします。

「2021年度ラック28小学校プロジェクト」は、AEFA初のラオス北東部シエンクアン県 モン族の子どもたちのための学校です。ラオスには、595,028人（人口の8.5% 2015年度調査）が、主に北部から中部までを中心に居住しています。（情報提供：ACD）



シニアが動く、日本が変わる プラチナ・ギルドアワード受賞

認定NPO法人プラチナ・ギルドの会が主催する、アクティビティシニアの社会貢献活動を表彰する同賞を、AEFA理事長の谷川が受賞しました。3月23日、表彰式と受賞者スピーチが行われ、オンライン配信されました。

表彰式で谷川は「AEFAの活動を立ち上げてからというもの無我夢中で奔走してきてただけなのに、賞をいただけるなんてびっくりして面映ゆいです。これからも焦らず、急がず、淡々と、頑張ります」と、受賞の喜びを語りました。



リレートーク Why AEFA?

藤原和博 →→ 橋川幸夫

株式会社デジタルメディア研究所 代表

多摩大学経営情報学部 客員教授 株式会社リーフラス 顧問他多数。

1972年大学生の頃、音楽投稿雑誌「ロックイングオン」を渋谷陽一らとともに創刊。

以降、さまざまなメディアを開発する。「森を見る力」「参加型社会宣言」等著書、執筆、講演なども多数。多くの仲間・弟子・読者たちとともに、「新しい時代」をデザインする活動を幅広く展開している。

谷川洋さんと知り合ったのは、2006年に私たちの企画「ODECO」が、文部科学省の新教育システム開発プログラム採択事業として実施した時です。これは全国の公立小中学校に、オンデマンド型で教育メソッドを提供してこうとするものです。提供する民間の教育メソッドを探している時に、友人だった故・田尾宏文さんが「アジアの子どもたちに向けてユニークな活動をしている人がいるよ」と紹介してくれたのがAEFAの谷川さんでした。田尾さんは1980年からの友人で、その頃はシンクタンクの調査研究の仕事をしていて、やがてニートの子どもたちの支援を行うNPOの「ニュースタート」のスタッフとして活動していました。

お会いした谷川さんは、にこやかな笑顔にある眼光からは、地の底から湧き出るようなエネルギーを感じる人でした。文科省のプロジェクトでは出前授業を実現出来なかったが、そこでの出会いから関係性を深めて、お付き合いさせていただいています。

私自身は資金も谷川さんのような行動力も不足していますが、長年のメディア活動で、育てた人脈だけはさまざまにありますので、その人脈を使ってAEFAの裏側の広報担当として、いろいろな人や企業を紹介させていただいている。パンフレット作りも紹介した若い編集者が頑張って作成してくれました。

私の若い時からのメンターである故・林雄二郎は「情報化と国際化が重要だ」とよく言っていました。彼はトヨタ財団の専務理事時代に、アジア各国の出版物を日本で発行助成するプログラムを行っていました。林さんほどの力はもちろんありませんが、これからも、谷川さんと一緒に日本の子どもたちとアジアの子どもたちの交流事業の手助けが出来ればと願っています。



2020年1月 タイの小学校にて

次のバトン：坪井未来子さん（ベトナム語通訳・翻訳者 AEFA理事）



- 1月8日 仕事始め、AEFA 打合せ会議
- 15日 セカンド・オピニオン社 / 小澤社長と Zoom にて 2021 年度支援案件打合せ
- 22日 スリランカのダヤシリ氏と支援案件打合せ=電話
- 29日 熱中小学校江丹別分校「小学校をつくろうボランティア部」代表メンバーとベトナムクーモ分校協定書締結
- 2月15日 横浜幸銀信用組合訪問、ベトナム学校建設支援打合せ
- 17日 AEFA 理事会、2020 年度決算報告承認・2021 年度予算承認
- 26日 AEFA 総会、Zoom にて開催
- 3月5日 AEFA 関西支部と Zoom にて、プロジェクトについて他打合せ
カナオカ社 / 金岡社長・五味様来所、2021 年度支援案件打合せ
- 7日 カシトン（大阪府柏原東高校）閉校式に、Zoom にてベトナムのキムソンカシトン小学校が参加
- 9日 AM / ニッコクリスト社 / 中田様・馬田様来所、カムリ II 小学校プロジェクトについて打合せ
PM / 長野県大岡小学校と Zoom にて出前授業。児童らが学校菜園で育てた大根を販売した「大根基金」の贈呈式。
- 16日 横浜幸銀信用組合 / 岩田様・中村様来所、ベトナムタイア分校支援決定
- 23日 理事長の谷川が「第8回プラチナ・ギルドアワード」受賞。
記念スピーチは、オンライン配信された。
- 3月開催のエルセラーン社スプリングフェスティバルにて、ベトナム・スリランカの 6 校の学校・図書館のミニ開校式が開催された
- 4月5日 スリランカ・ダヤシリ氏と Zoom、2021 年度案件打合せ
- 6日 アライブ / 藤井社長他 2 名+イー・ラーニング社 / 吉田社長他 4 名来所
4 月 23 日名古屋講演会及びイー・ラーニングの建設支援について打合せ
- 9日 热中小江丹別分校「小学校をつくろうボランティア部」とベトナム CSD とクーモ分校を Zoom でつなぎ、挨拶とお互いの紹介
- 14日 ベトナム タンタイン1小学校開校式及び図書館開所式開催。
現地グループ会社のご参加で、教員・児童らと“学校が出来た”喜びを分かち合った（巻頭記事参照）
- 23日 名古屋でのイー・ラーニング社イベントでの講演（谷川）
- 5月10日 ラオス ACD と Zoom 打合せ
- 12日 サイサン社 / 川崎様来社、タンタイン1小学校開校式報告
- 28日 多摩大学経営情報学部「事業構想論」にて講演（谷川）
- 6月15日 AEFA 創業 17 周年。18 年目を迎えた

自宅で一人過ごす時間が続く。トマトやきゅうりなど家庭菜園を楽しんでいる。
ラオス NGO 代表のノンさんも、ロックダウン中は田植えや農業に勤しんでいるようだ。Zoomの画面からも、あふれんばかりの笑顔とともに、収穫したばかりの大きなマンゴーを見せてくれた。
心が和む。

改めて実感するのは、人間は一人では生きてはゆけない。人と交わって、生きていくものだということ。そのために大事な、友情、感謝の気持ちと



AEFA ホームページ

昨年に引き続き、
有限会社ブエンテ様のご協力で
リニューアルされました。
<https://www.nippon-aefa.org/>

私たち
は各国のパートナーNGOと
手携えて活動しています。



ベトナム : Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)

Vietnam Assistance for the Handicapped (VNAH)

Saigon Children's Charity (SCC)

ラオス : Association for Community Development (ACD)

タイ : Raks Thai Foundation (CARE Thailand)

スリランカ : Rotary Club of Colombo (RCC)

人間は、一人では生きてゆけない

Tanikawa's Notebook 理事長・谷川洋

